

2022年度
事業計画書

目 次

1. 方 針	1
2. 事業計画	
(1) 科学振興のための研究助成と研究交流	2
(2) 国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流	5
(3) 科学知識の普及・啓発	7

1. 方針

日本科学協会は1924(大正13)年に、前身である(財)科学知識普及会として設立され、雑誌『科学知識』の刊行を通し、難解な科学を多くの人々に少しでも解りやすく伝えることをそのミッションとしてきた。

2020年の冬頃から新型コロナウイルス感染症が流行し、人々の生活様式は一変し、人と人との関わり、社会の形が大きく変わろうとしている。ICTの活用によるテレワークや遠隔会議等、科学・技術の発展は、新しい社会への対応に不可欠となっている。また、将来にわたって人類が持続可能な社会を築くためには、科学・技術のイノベーションが必須であり、特に若手の研究者への支援は、これまで以上に重要になってきている。

一方、グローバル化や世界規模の感染症流行等により世界各国との緊密な連携・協力の重要性も年々高まっており、世界各国の価値観を共有化し、より強固な連携を行っていくことが重要である。そのため、日本の価値観を世界の国々と共有し、一体となって、社会問題に立ち向かっていかなければならない。

このような社会情勢のなか、日本科学協会は「研究者の育成」と「国際相互理解」を二大テーマに据えながら、引き続き「社会と科学をつなぐ」「日本と世界をつなぐ」という使命を果たすため、2022年度の事業計画を策定した。

(1) 科学を担う人材の育成

科学に関する若手研究者の育成を図るため、300件を超える科学研究に対する研究費の助成を行うとともに、研究助成のOBに対するフォローアップの強化等を通じ、研究成果の社会への発信に努める。また、科学に対する好奇心旺盛な高校生を対象に、専門家が主にメールで研究の個別指導を行うサイエンスメンタープログラムを実施する。

(2) 国際相互理解の促進のための図書寄贈や交流事業

隣国の中国との相互理解のために、中国の大学等へ日本に関する図書の寄贈を実施するとともに、中国の大学生等を対象とした日本に関する日本知識の競技大会の開催、日本や中国に関する作文コンクール等の各事業を実施する。さらに、図書寄贈については、日本への理解を促進するため、アジア諸国等の大学へ拡大を図る。

(3) 科学の魅力を社会に伝える

本会が制作した「科学実験のデータベース」「立方体地球の動画」「生命科学の電子テキスト」等の科学に関する情報や教材、もしくは、本会が主催するイベント等を通して、科学の不思議や面白さを知ってもらう機会を提供し、子供や学生、一般の方等に対して、科学的素養の醸成を図る。

2. 事業計画

(1) 事業名「科学振興のための研究助成と研究交流」

科学研究の将来を担う若手中心の人材の育成と、その研究を奨励し併せて研究交流の推進ならびに研究成果の社会還元に努めることにより、科学振興のさらなる充実を図る。

【日本財団助成事業】

① 若手研究者の研究奨励

イ. 学術研究助成

- イ) 実施内容：萌芽性、新規性または独創性のある他からの助成が受け難い研究に対して助成を行う。
- ロ) 募集方法：一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究：人文・社会科学および自然科学（ただし、医学を除く）に関する研究
※各分野の中に「海に関係する研究」を含む
- ニ) 対象者：大学院生あるいは大学等の所属機関で非常勤・任期付き雇用研究者であって、35歳以下の者（外国人留学生を含む）
※「海に関係する研究」は正規雇用者も含む
- ホ) 助成金額：約650千円/件（助成予定件数 307件）

② 特定分野の研究奨励

イ. 実践研究助成

- イ) 実施内容：教育・学習・自立支援等を行う様々な組織・団体（NPOを含む）において、その実践の場における社会的要請の高い研究への支援と、質的向上を目指して助成を行う。
- ロ) 募集方法：一般公募による募集
- ハ) 対象となる研究
 - a. 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究：
学校、NPOなどに所属している者が、その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究
 - b. 学芸員・司書等が行う調査・研究：
学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資するために行う調査・研究
- ニ) 対象者：専門的立場にある者（教員、学芸員、図書館司書、カウンセラー、指導員等）あるいは問題解決に取り組んでいる当事者など
- ホ) 助成金額：約300千円/件（助成予定件数 22件）

③ 研究助成の推進

- イ) 実施内容：研究分野の動向や研究環境の変化などを勘案した上で助成方針を定め、それに即した募集および審査・選考を行い、本会独自の助成姿勢を示し研究助成の意義を高める。
- ロ) 2023年度「笹川科学研究助成」助成計画策定
 - a. 募集要項、選考方針等の策定
 - b. 研究計画内容の評価ならびに審査・選考
 - c. 2023年度の研究助成計画の策定
- ハ) 笹川科学研究助成の研究成果の管理
笹川科学研究助成を受けた者（笹川助成研究者）から提出された論文別刷等研究成果の整備・保管
- ニ) 研究助成実績に関する資料の整備
「笹川科学研究助成」の実績についての分析および統計資料等の整備

④ 研究成果公表支援

イ. 海外発表助成

- イ) 2022年度助成
 - a. 実施内容：海外研究集会（学会等を含む）において、研究成果の発表を行う研究者に対し、渡航費など必要な経費の助成を年4回に分けて行う。
 - b. 対象者：笹川科学研究助成を受けた国内に居住する研究者
 - c. 助成金額：約200千円/件（助成予定件数 70件）
- ロ) 2023年度募集周知および第1期助成計画策定

⑤ 笹川科学研究奨励賞の選出

- イ) 賞の趣旨：単に研究の内容や成果のみに捉われず、研究に対する取り組み姿勢など笹川科学研究助成らしい視点も加えて評価し、表彰することによって若手研究者の研究意欲を高める。
- ロ) 対象件数：2022年度助成者のうち、学術研究助成から14名以内、実践研究助成から2名以内

⑥ 「笹川科学研究奨励賞」受賞研究発表会の開催

イ. 「笹川科学研究奨励賞」

- イ) 対象件数：2021年度「笹川科学研究奨励賞」受賞者16名以内

ロ) 表彰内容：賞状および副賞各100千円

ハ) 動画作成：受賞者の研究発表動画の作成とWebサイトでの公開

ロ. 研究発表会の開催

イ) 開催時期：2022年4月下旬（下記の「研究者交流会」と同日開催）

ロ) 実施内容：「笹川科学研究奨励賞」受賞者による研究成果の発表と質疑応答

ハ) 参加者：笹川助成研究者、指導教官、関係者など約120名

⑦ 研究者交流会（研究奨励の会）の開催

- イ. 開催時期：2022年4月下旬
- ロ. 実施内容：助成決定の通知、来賓の挨拶、研究者の相談指導、研究者の相互交流
- ハ. 参加者：2022年度助成者（自由参加）、来賓、指導教官、関係者など約350名

2020年度笹川科学研究奨励賞
受賞研究報告および助成者へのメッセージ



2020年度笹川科学研究奨励賞 受賞者一覧

氏名	所属	研究内容	研究の社会的意義
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用
田中 隆夫	東京大学大学院理学系研究科理学部	量子力学の基礎理論とその応用	量子力学の基礎理論とその応用

【笹川科学活性化基金事業】

研究成果の社会への発信や、笹川科学研究助成を受けた研究者（OB・OG）のフォローアップ事業の充実のため、昨年に引き続き以下の事業を実施する。

⑧ 研究成果発表会の開催

- イ. 開催時期：2022年9月（予定）
- ロ. 実施内容：笹川科学研究助成を受け研究者として活躍しているOB・OG4～5名による研究成果の発表と質疑応答。昨年に引き続き海洋分野に関することをテーマとし、関心をもった企業に参加してもらう。
- ハ. 実施方法：企業を会員としている海洋関係の社団法人と連携して企業が関心を持ちそうなテーマで研究成果発表会を開催する。発表者は、OB・OGに公募し選定する。

事業費総額：279,510千円

【日本財団助成事業 ①～⑦】
278,110千円（事業費：236,650千円、事業管理費：41,460千円）
【笹川科学活性化基金事業 ⑧】
1,400千円（事業管理費を含まず）

(2) 事業名「国際相互理解促進のための図書寄贈と国際交流（日中未来共創プロジェクト）」

日本国内で収集した教育・研究図書の中国を始めとしたアジア諸国等の大学等への寄贈を実施し、寄贈先国における日本文化の伝播と日本語教育の振興を通じて、日本と当該国との相互理解の深化と友好関係の構築を図り、両国関係の将来を担う人材の育成に寄与する。

また、中国の大学生を対象とした「日本知識大会」、「研究論文コンクール」、中国及び日本の若者を対象とした各「作文コンクール」、さらに3事業に係る訪日・訪中プログラムを併せて実施し、日中相互理解の深化と友好関係の構築を図り、日中の将来を担う人材を育成に寄与する。

【日本財団助成事業】

① 図書寄贈

イ. 実施内容：中国などアジア諸国等への寄贈を目的に各方面への協力依頼を通じて日本で図書を収集し、選定・調整のうえ要望に基づき中国及びアジア諸国等の大学等に継続寄贈する。なお、図書資源については、中国、或いはアジア諸国等への寄贈図書として適切にマッチングのうえ共用することにより、有益図書資源の有効活用を図る。

ロ. 図書の収集、寄贈

イ) 収集：・対中国 8万冊/年
・対アジア諸国等 4千冊/年

ロ) 寄贈：・対中国 8万冊/年
・対アジア諸国等 4千冊/年

ハ. 寄贈対象：・対中国 86大学等
・対アジア諸国等 2大学（1大学×2カ国）

ニ. 寄贈方法：・対中国 中継寄贈システムにより集約寄贈
・対アジア諸国等 各寄贈先に直接寄贈

② 笹川杯全国大学日本知識大会

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語学習者が一堂に会して日本知識や日本語能力を検証する機会となる日本知識大会を開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ. 参加者：中国全土の約100大学の日本語学習者

ハ. 日本招聘：優勝者等 20名

③ 作文コンクール

イ. 笹川杯本を味わい日本を知る作文コンクール（中国語版、日本語版）

イ) 実施内容：中国全土の若者を対象として、日本関係図書等の感想文を中国語或いは日本語で募集する各作文コンクールを開催し、優勝者等を日本に招聘する。

ロ) 共催機関：・上海交通大学図書館（中国語版）
・人民中国雑誌社（日本語版）

ハ) 応募資格：・中国の大学生（中国語版）※中国全土の大学図書館を窓口として募集
・16歳～35歳の中国国民（日本語版）

ニ) 日本招聘：優勝者等 11名

ロ. Panda杯全日本青年作文コンクール

イ) 実施内容：日本全国の若者を対象として、
“中国”をテーマに日本語による
作文コンクールを開催し、優秀
賞受賞者等を中国に派遣する。

ロ) 共催機関：人民中国雑誌社、中華人民共和
国駐日本国大使館

ハ) 応募資格：16歳～35歳の日本人

ニ) 中国訪問：優秀賞受賞者等 合計71名

(2022年度分 26名、2021年度分 23名、2020年度分 22名)



④ 新規関連事業等の企画・立案

【笹川科学活性化基金事業】

⑤ 笹川杯日本研究論文コンクール

イ. 実施内容：中国全土の大学の日本語専攻の学部生を対象に日本に関する研究論文コンクール
を開催し、成績優秀者等を日本に招聘する。

ロ. 共催機関：中国教育部大学日本語専攻教学指導分科委員会、中国日語教学研究会、吉林大学

ハ. 応募資格：中国全土の大学の日本語専攻の学部生

ニ. 日本招聘：優勝者 合計4名（上限）

事業費総額：148,560千円

【日本財団助成事業費 ①～④】

140,020千円（事業費：82,460千円、事業管理費：57,560千円）

【笹川科学活性化基金事業費 ⑤】

8,540千円（事業費のみ）

(3) 事業名「科学知識の普及・啓発」

高度な科学・技術社会を健全に維持するには、敬遠されがちな科学・技術への関心を高める必要から、次代の科学・技術を担う人材を育成し、難解となりがちな科学・技術を分かりやすく身近な形で一般に伝える事業を行い科学知識の普及・啓発に資するものである。

【モーターボート競走法制定40周年記念基金事業】

① 中高生のためのサイエンスメンタープログラム

学校教育の枠にとらわれない高度な専門研究レベルの科学教育のプログラムを実施し、次代の科学・技術を担う人材を育成する。

イ. サイエンスメンタープログラム

イ) 実施内容：科学に関心を持ち、個人もしくは小グループで科学研究を進めている中学生・高校生（メンティ）に対して、経験豊かな自然科学・応用科学の専門研究者（メンター）から、科学研究の基礎を一定期間学ぶことができる機会を提供する。

ロ) 対象件数：20件程度

ハ) 研究期間：原則として半年～1年

ニ) 研究費：原則として1件につき200千円を上限として、実費を支給する。

ホ) 研究発表会：年2回、研究発表会を開催する（8月と3月を予定）。

ヘ) 募集と審査・選考：年間を通して参加希望者を公募し、サイエンスメンター事業委員による審査・選考を行う。

ト) その他：サイエンスメンタープログラムに関心がある希望者に研究相談を行う。

ロ. 統計講習・研究倫理の講習

イ) 実施内容：学校教育のカリキュラムには含まれないが、科学研究の基礎として学ぶことが重要な統計学及び研究倫理に係る講習会を開催する。

ロ) 開催日：(統計講習会) 2022年7月、2022年9月、2023年3月
(研究倫理講習会) 2022年8月、2023年3月

ハ) 対象者：中学生・高校生・学校教員 各講習会1回につき10～50名程度

② 科学実験データベースなどのWeb公開

大人の知的好奇心や探究心を満たすとともに、子供たちの教育や指導にも活用できる、身近な生活のなかの「科学」に関する様々な話題を集め、「科学実験データベース」や「コラム」としてWeb公開する。

イ. 「科学実験データベース」と「コラム」の公開と追加

イ) 実施内容：自然や文化、身近な科学実験に関する話題等を「科学実験データベース」、「コラム」としてWeb公開し、「科学実験データベース」を追加する。



ロ) 実施方法：本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

③ 子供たちへの科学実験体験

子供たちや親世代への科学実験の機会を容易にし、自然の法則、科学の原理など科学・技術の楽しさや素晴らしさを伝え興味・関心を喚起する目的で科学実験教室を開催し、同時にオンラインで公開する。

イ. 「Web 版科学体験まつり」の実施と新規映像の追加

イ) 実施内容：

新型コロナウイルス感染症の影響等により、科学実験体験が難しくなってしまった子供たち等を対象に、昨年度から公開をしている「Web 版科学体験まつり」を引き続き Web 公開する。また、いくつかのコンテンツの新規映像を制作して、分かりやすさや集客力を向上させ、「Web 版科学体験まつり」をより魅力的なコンテンツとする。

ロ) 実施方法：

「WEB 版科学体験まつり」の管理は、本件の公開に向けて当初から協働して作り上げてきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託する。新規映像は、映像編集会社などに委託し制作する。

ロ. 「科学実験」イベントの開催

イ) 実施内容：科学実験を行う機会の少ない離島に出向き、サイエンスキューブ(移動式暗室)を用いて地域密着型の科学実験イベントを開催する。

ロ) 実施方法：本件の開催に向けて当初から協働して準備を行ってきた兵庫教育大学原体験教育研究会に委託して実施する。

④ 地球科学の理解促進

身近な科学の面白さや不思議さを伝えるためのイベントを開催し、気象現象や地球科学の理解促進に努める。

イ. 実施内容：本会で制作した短編映像「Cubic Earthーもしも地球が立方体だったらー」等を利用したワークショップを開催する。

ロ. ワークショップの開催

イ) 開催日：2022年8月頃 2日間

ロ) 対象者：小学校高学年～中学生及びその保護者
160名程度

ハ) 場所：港区立みなと科学館(予定)

ニ) 講師：気象や理科教育の専門家

【笹川科学活性化基金事業】

⑤ 生命科学テキスト「人間の生命科学」プロジェクト

現代社会を生きる人間にとって必須の基礎知識になっている生命科学を、従来の教科書とは異なる本会独自の「『人間の生命』を軸にしたスタイル」という視点で制作したテキストを使い、若い世代や一般の方を対象に、生命科学の基礎知識の普及・啓発を行う。

イ. 実施内容：

イ) セミナーの開催：

生命科学の基礎知識の啓発のため、「生命科学テキスト『人間の生命科学』」を利用したセミナーを開催する。

- a. 講師：テキスト執筆者に依頼
- b. 対象：学生、社会人等
- c. 場所：科学館や会議室等
- d. 共催：セミナーの開催実績のあるNPO等

ロ) テキストの普及：

テキストの利用を促進するため、全国の高校等へダイレクトメールの発信、SNS等による情報発信、テキストの共同研究者である国立情報学研究所のシステムとの連携等を実施する。

⑥ サイエンスコミュニケーション

科学に関する様々な分野の専門家の知識を一般に広めることを通じて、科学・技術への興味や関心を高める一助となることを目指し、情報を発信する。

イ. 実施内容：科学者から一般の方へ、役立つ情報や、科学への知的好奇心を高める「コラム」をわかりやすい言葉で発信する

イ) 発信テーマ：「私の履歴書」科学者版、役に立つ科学情報（仮）

ロ) 発信方法：Webページに掲載し、SNSなどで周知

ハ) 発信回数：8回程度

事業費総額：40,060千円（事業費：19,970千円、事業管理費：20,090千円）

【モーターボート競走法制定40周年記念事業 ①～④】

16,770千円

【笹川科学活性化基金事業 ⑤⑥】

3,200千円